

東北地方 1 か月予報

(11月29日から12月28日までの天候見通し)

平成20年11月28日
仙台管区气象台発表

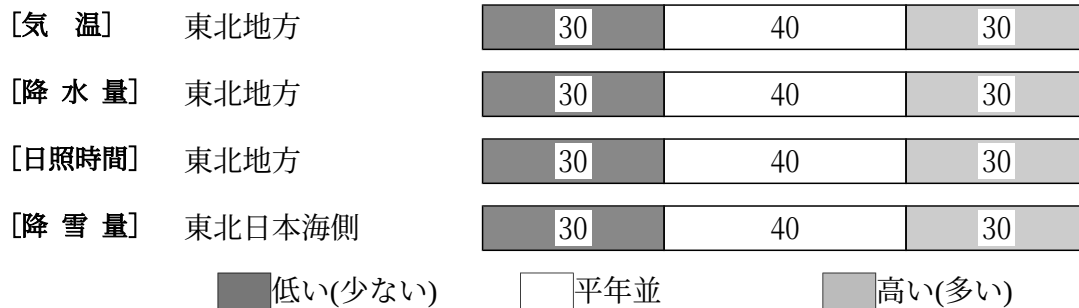
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

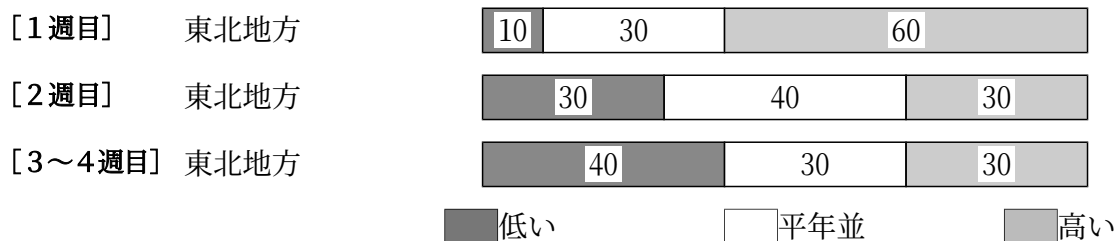
なお、この期間、寒暖の変動が大きいでしょう。

週別の気温は、1週目は高い確率が60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 11月29日(土)～12月28日(日)

1週目 : 11月29日(土)～12月5日(金)

2週目 : 12月6日(土)～12月12日(金)

3～4週目 : 12月13日(土)～12月26日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は12月5日

3か月予報：12月25日(木) 14時

＜参考資料（平年並の範囲等）＞

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と 1 週目、2 週目、3～4 週目の平均気温）

	気 温 (°C)	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	降 雪 量 (cm)	気 温(°C)		
					1 週目	2 週目	3～4 週目
青森	1.6	143.7	54.3	150	3.3	2.2	0.7
深浦	2.8	127.4	34.4	69	4.4	3.3	1.9
むつ	1.5	93.1	72.5	96	3.2	2.0	0.6
八戸	2.0	40.8	124.4	43	3.6	2.5	1.0
秋田	3.0	162.2	46.9	72	4.7	3.6	2.2
盛岡	1.1	65.3	100.7	64	2.7	1.6	0.2
大船渡	3.8	41.7	134.6	0	5.4	4.3	2.9
宮古	3.3	42.2	146.2	15	4.9	3.9	2.4
仙台	4.6	28.1	139.4	9	6.2	5.2	3.7
石巻	3.7	27.3	149.0	0	5.3	4.2	2.8
山形	2.7	78.6	82.1	85	4.3	3.2	1.8
新庄	1.7	205.7	36.7	156	3.4	2.3	0.8
酒田	4.6	202.4	43.2	59	6.1	5.2	3.8
福島	4.5	34.0	126.0	27	6.0	5.0	3.6
若松	2.2	81.8	70.3	91	3.8	2.7	1.4
白河	3.0	29.3	151.7	14	4.6	3.6	2.2
小名浜	6.4	40.7	177.3	0	7.8	6.9	5.6

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.5	80～102	97～103	68～109
東北日本海側	-0.4～+0.5	92～107	91～107	78～116
東北太平洋側	-0.3～+0.5	67～106	98～104	59～105

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3～4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北地方	-0.7～+0.7	-0.6～+0.6	-0.5～+0.6
東北日本海側	-0.8～+0.7	-0.6～+0.7	-0.5～+0.6
東北太平洋側	-0.7～+0.7	-0.6～+0.6	-0.4～+0.7

＜参考資料（利用上の注意）＞

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10％以下や 60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 20 年 11 月 28 日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月（11 月 29 日～12 月 28 日）：

東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

なお、寒暖の変動が大きく、期間の後半には寒さが厳しくなるおそれがあります。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

1 週目（11 月 29 日～12 月 5 日）：

東北日本海側では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多いですが、期間のはじめと終わりには晴れの日があるでしょう。東北太平洋側では高気圧におおわれて晴れの日が多いですが、期間のはじめと中頃には気圧の谷の影響で曇りや雨または雪の日がある見込みです。

平均気温は高い確率が 60% です。

2 週目（12 月 6 日～12 月 12 日）：

気圧の谷が数日の周期で通過し、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少なく見込みです。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3～4 週目（12 月 13 日～12 月 26 日）：

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。一時強い寒気が南下し、冬型の気圧配置が強まる見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

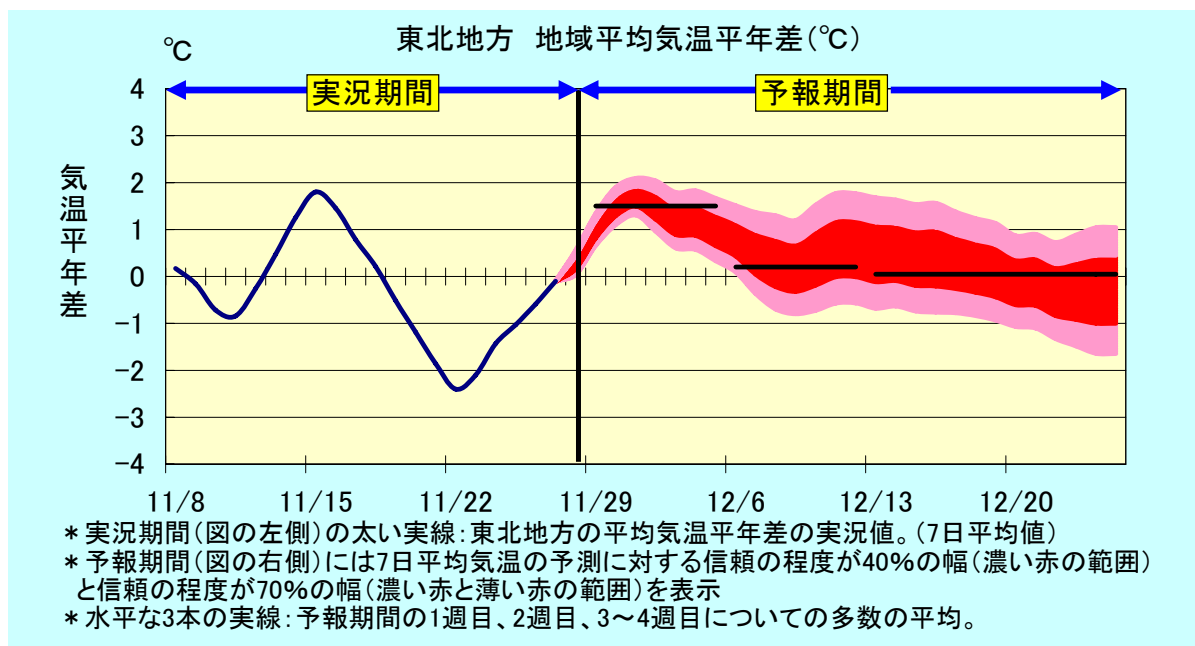
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	4.8 日	1.4 日	1.1 日	2.3 日
東北太平洋側	16.8 日	4.2 日	4.0 日	8.6 日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1 週目は高く、2 週目、3～4 週目は平年付近の予想となっている。

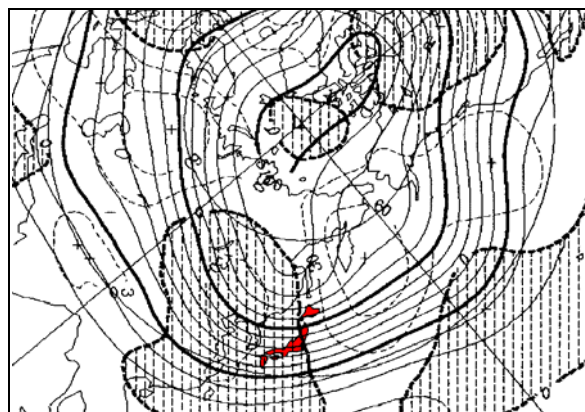


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

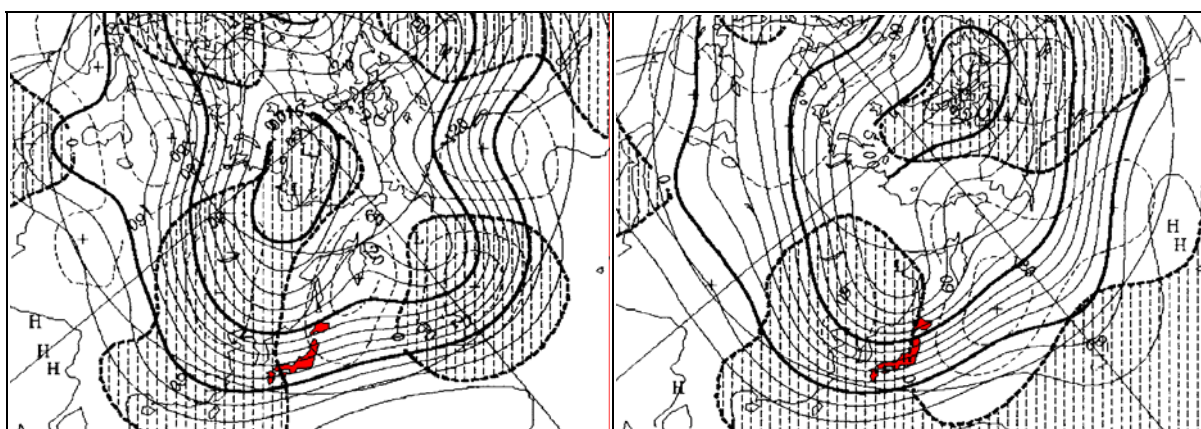
1か月平均: 中緯度帯は波列状の偏差分布となる。中国大陸から東シナ海にかけて負偏差が広がり、東端が西日本にかかる。一方、日本の東にはカムチャツカ半島付近を中心とする正偏差が広がるが、東北地方の偏差は小さい。

1週目: 中国大陸から東シナ海に負偏差が広がるが、北日本はカムチャツカ半島付近を中心とする正偏差におおわれ、気温は高めの予想。日本付近は西谷が明瞭。

2週目: 中国大陸から東シナ海にかけての負偏差が西日本にかかる。一方、日本の東海上には正偏差が広がり、日本付近は西谷傾向。東北地方の偏差は小さく、平年並の気温が予想される。



1か月平均 500hPa 予想天気図
(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は 30m 毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図

2週目平均 500hPa 予想天気図

実線は、等高線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

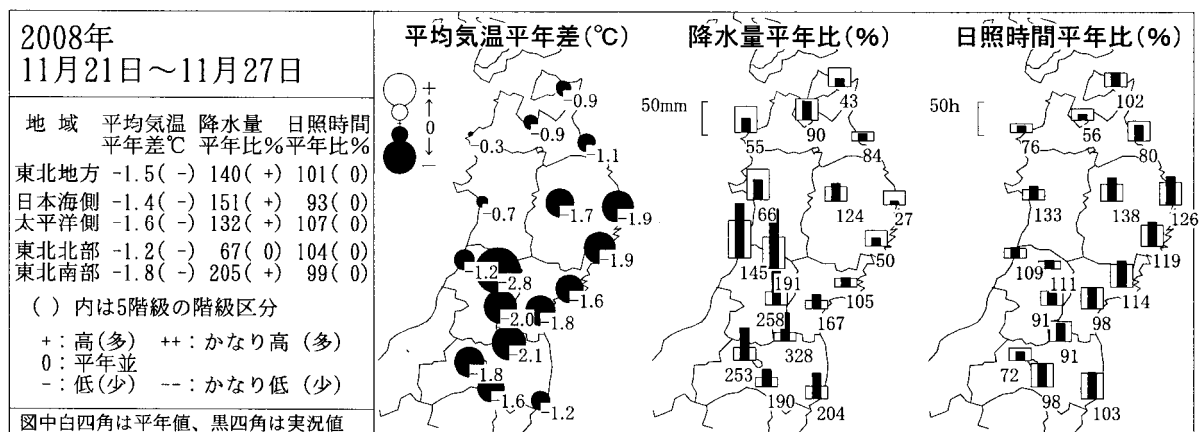
陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間（11月21日～11月27日）の天候の経過

期間のはじめは寒冷前線の通過後、一時冬型の気圧配置となり東北日本海側を中心に曇りや雪または雨となった。その後、24日から25日にかけては、南岸低気圧の影響により東北南部を中心に雨または雪となったが、期間の終わりは移動性高気圧におおわれておおむね晴れた。

なお、この期間、寒気が南下した影響で気温の低い日が多かった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で平年並、東南北部で多い。日照時間は東北地方で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）